

学校生活について

愛知県立半田高等学校附属中学校

- ★ 学校説明会の中では説明しきれないことが想定されるため、資料としてまとめました。内容は、現在の学校生活のこと、次年度以降に向けて構想していることを、事前にご質問いただいた内容も踏まえ掲載しております。
- ★ 半田附属中は、日々教育活動について目標・目的と照らし合わせながら教員で話し合ったり、生徒からのアイデアをもとに活動したりしている学校です。個々に掲載されている内容が、入学前、在学中に変更となることは大いに考えられます。

I 校章・制服等について

○ 校章・校歌

高校・附属中の一体感を大切にするため、同一のものです。

○ 制服

高校・附属中の一体感を大切にする、また家庭の負担を軽減するため、6年間同一のものを着用できます。

学校指定の制服は「スーツ」「学生服（詰襟）」「セーラー服」の3つあり、自由に選択できます。



○ 体育時の服装

高校が令和7年度入学生から、学校指定の物品ではなく「運動に適した服装」であればよい形になりました。附属中も、同様に「運動に適した服装」であればよいです。

なお、附属中は「体育館シューズ」の指定もありません。高校入学時に、指定の「体育館シューズ」（中学時には推奨品として紹介しています）、「名前入りビブス」の購入があります。



○ 校内の履き物

附属中は、学校指定の物品ではなく、防災の観点からかかとのある履き物で、体育館シューズと別のものを自由に用意してもらっています。高校入学時に、「指定スリッパ」（中学時には推奨品として紹介しています）の購入があります。

2 生徒指導・生徒支援について

★「生徒指導・生徒支援」の中で大切にしていること

- ・ 安心感のある環境の中で、生徒の主体性と当事者意識を育てます
- ・ 半田高校が開校以来大切にしている、「自学・自治・自鍛」・「自主自律」の精神を大切にします

○ 学校のきまり（校則）

生徒の主体性、自主自律の精神を大切にし、中学生が発達段階であることや安全に配慮する項目（例えば、最終下校時刻が早い、自動車学校へ通うことができない）を除けば、高校と同じきまりです。詳しくは、附属中学校のホームページでご確認ください。

○ チーム担任制（全員担任制）

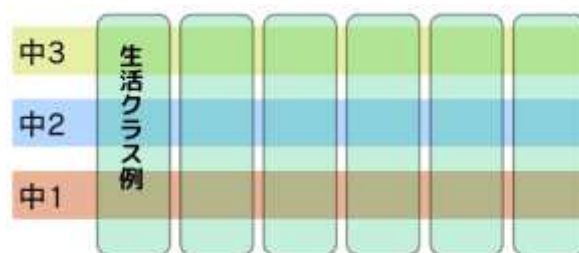
クラスに決まった担任の先生がいるのではなく、附属中の職員全員が担任です。定期的に担任が替わります（令和7年度は、1週間ごとだったり、毎日だったり、替わり方を模索しています）。これにより、教員全員で一人ひとりの生徒を見守ることができたり、自分のクラスは自分たちで創るということができたりすることを期待しています。

また、年間複数回、生徒と先生、または生徒と保護者の方と先生の面談を行っています。このときの先生は、生徒や保護者の方の希望を優先して実施しています。

○ 授業クラスと生活クラス

授業は、学年ごとに取り組む内容が異なるため、学年を2つに分けた「授業クラス」で受けることになります。

一方、学年ごとでなくてもよい朝や帰り、給食、清掃、また特別の教科「道徳」やLT（学級活動）の時間は、基本的に附属中3学年を混ぜ6つに分けた「生活クラス」で送っています。また、「遠足」や「ひいらぎ祭（学校祭）での出し物」もこの生活クラス単位で進めています。



イメージ図：いわゆる縦割りクラスを取り入れた生活クラス

これにより、学校を構成する異学年の生徒同士で話し合う機会が自然となったり、教員からの指示を待たなくても、学校生活をどのように送るのかを上級生が下級生にレクチャーする様子が見られたりするなど、自分たちの学校を自分たちで創るという自治意識をより高められるようになっていきます。

○ スクールカウンセラー等の心の支援

スクールカウンセラー派遣は、令和８年度は毎月２日程度・１日あたり４～８時間、中学３学年が揃う令和９年度以降は毎週１日・１日あたり６時間の予定です。

また、相談室を使って、いつでも附属中の先生に相談することができます。

○ 生徒支援のためのオンラインツール活用

本年度は、主に２つのツールを導入し、生徒の主体性、当事者意識の育成の支援を行っています。

・ Classi（ベネッセコーポレーション）

先生と生徒、先生と保護者、生徒同士での連絡ツールとして、活用しています。主に、学校からのお知らせの一斉配信、アンケートや提出物をオンライン上で回答・回収、欠席連絡、生徒・保護者の方からの個別連絡等の機能を活用しています。

・ EdvPath（EdvFuture）

教科のテストで測ることのできる能力（学力）とはことなり、測りにくい「自己理解」、「モチベーション」、「コミュニケーション能力」、「自分自身の行動や感情の理由を客観的に理解する能力」、「やり抜く力」といった「非認知能力」の測定を定期的に行っています。

生活を振り返り、何が変わり、今後の生活をどのようにするのがよいのか、自分自身の状態を「ミエル化」できます。また、先生からその結果も踏まえながら、生徒支援を行っています。

3 1日の生活について

○ 附属中学校の日課

右の例のように、授業は50分授業、1日あたり6時間（月曜のみ7時間）です。

最終下校時刻は、夏季（3月初め～前期終業式）が17:05、冬季（後期始業式～2月末）が16:35です。

※ 高校では、授業は65分授業、1日あたり5時間（月曜のみ50分のLTがそのあとにあり）です。

時間	時限	月	火	水	木	金
8:40～8:50	ST					
8:50～9:40	1限	道	国	数	英	理
9:50～10:40	2限	数	理	英	音	社
10:50～11:40	3限	国	家	理	音/美	英
11:50～12:40	4限	保体	社	国	美	数
12:40～13:35	給食・昼休み					
13:35～14:25	5限	技	数	保体	総	国
14:35～15:25	6限	理	英	社	総	保体
15:25～15:45	ST・清掃					
15:35～16:25	7限	LT				

○ 通学方法

- ・ 徒歩
- ・ 自転車

学校から1kmより離れている場合に、学校へ届け出てください。駐輪場は附属中の前にあります。

- ・ 電車

名鉄河和線「住吉町駅」から徒歩、またはJR武豊線「半田駅」から自転車が多いです。

※ 周辺道路が狭いこと、周辺に小中高が多くあることから、安全のため自家用車での送迎を禁じています。（怪我等の場合は除く）

○ 学習指導・教科指導 ※令和8年度の内容のため、令和9年度に変更となることもある。

国語	単元	詩、小説、説明文、古典、文法、話すこと・聞くこと・書くこと、漢字、書写 など
	授業	教材、仲間、自分との対話的な活動を通して、学びを深めていきます。漢字テストや単元テストを定期的実施し、自分自身の学びを振り返る機会を設けています。宿題が出ることはほとんどありません。そのかわり、自分自身の学習状況や到達度に応じて、各自がワークやスタディサプリなどを活用して、学習内容の定着を図っています。
社会	単元	世界と日本の地域構成、世界各地の人々の生活と環境、世界の諸地域、古代までの日本と世界、中世の日本と世界
	授業	知識を習得するだけでなく、それをもとに単元のテーマに沿ったプロジェクトを企画・提案したり、レポートを作成したりするなど、知識を活用して深める学びを大切にしています。講義形式の時間は要点に絞り、自分に合ったペースで調べたり考えたりする時間を多く確保しています。また、単元ごとにテストを実施し、知識が習得できているか、概念がつかめているかなどを確認します。

数 学	単元	正の数・負の数、文字の式、方程式、不等式、比例と反比例、平面図形、空間図形
	授業	自由進度学習を取り入れ、それぞれ自分に合った学び方の実現を目指しています。取り組む課題に応じて適切な場所を自分で選択して学習を進めます。探究課題という学習した内容を活用し深めていく課題を出題しています。宿題はスタディサプリという学習支援サービスを使用して行います。単元の終わりには単元テストを行い、単元の理解度を確認します。
理 科	単元	いろいろな生物とその共通点、活きている地球、身のまわりの物質、光・音・力による現象
	授業	身近な現象について、観察・実験や資料の活用を通して、規則性や共通性を見いだす学習を行います。実験や観察では、目的に応じて方法を考えたり、結果を予想したりしながら学習を進めます。章ごとに確認テストを実施し、基礎的な知識・技能の定着を図るとともに、各単元の終わりには探究課題に取り組み、レポートやスライド作成を通して、自分の考えを科学的に表現する力を高めていきます。
音 楽	単元	校歌、日本の歌、合唱、アルトリコーダー、リズム、鑑賞、楽典
	授業	音楽に関する基礎知識を身につけ、表現の豊かさを育てることを目標としています。どのように音楽を楽しみ伝えていくか、自分自身で考える力を養います。歌唱やリコーダーなどの実技テストを実施します。アルトリコーダーを前期に購入します。
美 術	単元	美術との出会い（鑑賞）、見つめて感じて描いて（描く活動）、文字が生み出すイメージ（描く活動）、絵の中にある物語（鑑賞）、そのものらしさを形にして（つくる活動）、暮らしの中の木の工芸（つくる活動）
	授業	感じ取ったことや、考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動（描く活動、つくる活動）をします。伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動（描く活動、つくる活動）をします。鑑賞をします。
保 健 体 育	単元	陸上競技（短距離走・リレー）、ゴール型球技（サッカー）、ダンス（現代的なリズムのダンス）、ベースボール型球技（Tボール）、武道（柔道）、ネット型球技（バレーボール）
	授業	「みんなが楽しむ」ということを真ん中に置いて学習しています。性別や体格、能力の差などいろんな違いがあることを考えて、ルールや活動を工夫し、みんなで楽しんでいます。ゲーム、対戦をたくさん行い、その中で新たな知識を得たり、考えを深めたりします。
技 術	単元	私たちの生活を豊かに便利にする材料と加工の技術
	授業	木材、金属、プラスチックという私たちの生活における代表的な材料について、学び、考え、体験します。実際に木材加工を通じて、加工技術の基礎を体得します。

家 庭	単元	家族・家庭、衣生活、住生活
	授業	家庭に関する様々な課題について考え、解決する力を養うことができるように学習を進めます。衣生活では基礎縫い(手縫い)の技術を身につけるために袋を制作します。単元の終わりには単元テストを行い、単元の理解度を確認します。
英 語	単元	be 動詞、一般動詞、代名詞、助動詞 can、疑問詞、命令文、三人称単数現在形、現在進行形、動詞の過去形、there is/are～、英語で表現・質疑応答等
	授業	二学級同じ時間に授業を実施し、「基礎・応用・発展」の三つのクラスに分かれて学習を進めています。生徒自身が自分に合う進度・レベルのクラスを単元ごとに選択しています。単元テストや実力テストの他に、ALT の先生と年 3 回以上の、ライティング・リスニング・スピーキング等のテストを行い、理解度や表現力を確認し、その結果をもとに次の単元のクラスを選択します。また、単元ごとに課題を設け、計画的かつ主体的に取り組むことも大切にしています。第一学年では「質疑応答ができる」を目標設定して取り組みました。第三学年での海外研修を大きな目標に、「読む・聞く・書く・話す」の四技能をバランスよく、継続的に習得を目指しています。日々の努力の継続が大切です。

○ 探究（マイプロ）の構想と指導計画

本校の探究（総合的な学習の時間）は、生徒一人一人が自らの興味・関心を基に問いを立て、探究的な活動を通して課題設定力、論理的思考力、批判的思考力、表現力、データサイエンス、メディアリテラシーの6つの探究スキルを育成することを目的としています。また、試行錯誤や失敗を前向きに捉えながら、多様化する社会で挑戦し続ける姿勢を育むことを目指しています。

探究の中心となるのは、年間を通して取り組む「マイプロジェクト（ゼミ探究）」です。生徒は自ら設定したテーマについて自由に探究を進め、異学年混合のゼミで対話や助言を受けながら学びを深めます。ゼミはテーマではなく多様な生徒同士の出会いを重視して編成し、教員は伴走者として、生徒の主体性を尊重しながら必要に応じて講座や対話を実施します。

年間を通して、マイプロジェクトに加え、PBL(Project Based Learning)や特別プログラムを計画的に実施します。映像制作 PBL「DUAL VOICE」、教科横断探究 Week、アントレプレナーシップ教育、フェアトレード、ディベート、国際交流、グローバルプログラムなど、多様な学習機会を設け、実社会とのつながりを意識した探究活動を展開します。

評価はルーブリックを活用した形成的評価と総括的評価を組み合わせで行います。自己評価を基に教員とのリフレクション面談を実施し、活動の成果だけでなく学びの過程を重視した評価を行うことで、生徒が自己の成長を実感し、次の探究へとつなげられるよう指導していきます。

○ 学習支援ツール

・ タブレット端末

中学3年間、愛知県より端末を貸し出します。次年度も、OSはWindows、Officeのアプリが利用できる予定です。

※ 高校進学時には、端末の購入をお願いすることになります。(令和8年度高校1年生から)

※ 学校から、Microsoft アカウント、Google アカウントを発行しています。



・ Classi NOTE (コードタクト)

オンライン上のノート・ワークシートで、個人やグループで作業をしたり、お互いの様子を見合ったり、先生に提出したり返却をしてもらったりできる学習支援ツールです。

・ スタディサプリ (リクルート)

小学校から高校までの、いろいろな教科の学習を、「映像授業とオンラインテキスト」、「オンラインドリル」、「オンラインテスト」を使って、自分の好きなペースで好きなことを学習できます。

特に、附属中では、教科書に対応した単元の宿題配信、テスト配信などで活用しています。

・ ジャパンナレッジ School (Net Advance)

オンライン上で、辞典や事典、いろいろな教科の学習図書(中高生向け、一部大学生向け)、新書本(中高生向け、一般向け)を読むことができるツールです。教科の学習や総合的な学習の時間に活用しています。

・ GPS-Academic 中高版 (ベネッセコーポレーション)

問題を解決するために必要な「思考力」「姿勢・態度」「経験」を可視化するアセスメントテストです。教科の枠を超えた問題をオンライン上で1時間程度解き、すぐに結果のフィードバックを得られます。中高6年間継続して、1年に1回受検します。

○ 給食

半田市学校給食センターより、半田市立中学校と同じ給食の提供を受けています。令和6年9月より、新給食センターからの供給となり、はし・スプーンの提供、アレルギー給食の対応幅が広がる等の変更がありました。

給食当番による配膳を行います。当番の生徒のみなさんには、エプロン・三角巾等を用意してもらっています。



○ 部活動

附属中には、独自で設置した部活動はありません。高校の部活動のうち、中学生を受け入れてもよいと手を挙げてくれたところに、希望する生徒は所属します。（加入率 72.7%）

目的は、中高生の枠を超えて同好の生徒が自主的・自発的に集い、活動することで、人間関係の大切さやコミュニケーションスキル、組織の運営方法などを高校生の姿や行動から具体的に学ぶことです。そのため、原則として大会参加はなく、中小学校体育連盟への加盟等も行っていません。

（令和 8 年度）

下記の部活動が受け入れてくれています。

文化部 SSH 自然科学、英会話、美術、放送、箏曲、吹奏楽、ダンス

運動部 剣道、バスケットボール（男・女）、テニス（男子）、ソフトテニス（女子）、卓球（男・女）

活動は、授業期間中は火・水・金の業後です。長期休業中は別途連絡しています。なお、一部、追加で土日等に活動するアディショナル活動をしている部員もありますが、制度について詳しくは入学後に説明します。

○ 学校行事

・ 遠足（全学年一斉、生活クラス）

生活クラスの親睦を深めるために、5 月に「明治村」に行きました。現地での活動内容を計画する際には、自由の相互承認を大切にしながら、話し合いを進めました。

謎解きをしたり、重要文化時に触れたり、明治の衣装を着たりと各班で計画した活動に取り組みました。

・ 芸術鑑賞教室（第 1 学年）

本物の音楽に触れる機会として、愛知県芸術劇場で行われている「劇場と子ども 7 万人プロジェクト（小・中・高校生招待）対象公演」に行っています。令和 7・8 年度は、「絵本×朗読×パイプオルガン『終わらない夜』」を鑑賞しています。

あわせて、第 2・3 学年次の宿泊行事に向け、公共交通機関を使った移動やマナーについても学んでいます。

・ 野外活動（第 2 学年 9～10 月）

歴史、地形・環境、文化・産業など、様々な視点で魅力のある「滋賀県」を、教員主体ではなく、生徒実行委員主体で毎年旅行プランを作成しています。

野外活動の目的は、

普段とは異なる環境の中で、自らの学びを活用し深化させる探究的な姿勢と、自然に対する畏敬の念、集団生活の在り方や公衆道徳の精神を育てる。

Ⅰ マイプロジェクトや教科の授業と関連させ、生徒の興味にあわせた旅行プランを作成する中で、主体的に探究活動を行わせる。

- 2 平素と異なる生活環境にあって、自然に対する畏敬の念を感じさせたり、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積みませたりすることができる。

です。

令和8年度が初年度となります。2泊3日の予定で、下記の活動を行います。

- ・滋賀県立琵琶湖博物館 … 琵琶湖を中心とした様々な視点での探究学習
- ・やまなみ工房 … 世界で活躍されるアーティストの方が見える工房の見学
- ・黒壁スクエア（生徒リクエスト） … ガラスを使った体験活動等
- ・近江神宮、三井寺、比叡山延暦寺（生徒リクエスト）
… 歴史・文化をテーマとした探究学習
- ・安土城跡、彦根城（生徒リクエスト） … 城を中心とした探究学習
- ・休暇村近江八幡 … 自然体験、キャンプファイヤー、宿泊

・ **海外研修（第3学年2～3月）**

海外研修を通して、少数派の立場を肌感覚で感じさせたり、多様な価値観に直接ふれさせることで、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについて体験を通して学んだりします。また、物怖じしない態度を身につけます。

令和9年度が初年度となり、3泊6日（加えて、往復で機内泊あり）で下記のように予定しています。

- ・行き先 : オーストラリア メルボルン
- ・活動 : メリーミード高校との交流、現地大学生との交流、市内散策
野生動物保護区または動物園の見学 現地大学での研修 等
- ・費用 : 約45万円（積立）

4 進路指導・キャリア教育

★「進路指導・キャリア教育」の中で大切にしていること

- ・ 一人一人の生徒が、自分自身の個性を踏まえつつ興味・関心を伸長することで、将来の自己のキャリアをたくましく形成していこうとする、主体的かつ継続的に努力できる生徒を育てることを目標としています。
- ・ そのために、様々な職業の方との関わり、半田高校の卒業生との関わり、科学者の方との関わりを持てる機会を設けています。

○ いろいろな行事計画

・ 様々な職業の方との関わり

総合的な学習の時間を中心に外部講師を講師とした PBL(Project Based Learning)や特別プログラム、高校と合同で起業家の方等を講師としたチェンジメーカーセミナー等を行っています。

・ 半田高校の卒業生との関わり

アントレプレナーシップ講演会（高校卒業 30 周年を迎えた学年から、社会で活躍されている方を講師として招く）、弁護士や検察官・裁判官といった「法曹界」で活躍される卒業生と交流する裁判所見学や法曹と語る会などを行っています。

・ 科学者の方との関わり

高校が国から指定を受けている、科学技術系人材の育成のための取り組み「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業」の一部を通し、大学等で研究されている方を講師としたサイエンスコミュニケーション、知多地区の自治体や企業、高校大学等の研究機関が参加する「知多地区探究ネット」を活用した授業などを行っています。

○ 高校の進路指導行事、進路結果

高校 Web サイトをご覧ください。

学校説明会の学習についての中にも説明がありますが、数学や英語などで大学受験に向けた先取り学習をすることはありません（下図のように、探究学習のために全員を対象、または一部の生徒が先取り学習をすることはあります）。



- 発展的な学習として関連した単元等で取り上げる。
マイプロジェクトに必要な高度な学習をする。



- 高度な学習を求めている生徒に差をしない。
個別に高度な内容を自主的に学ぶことのサポート

5 中高連携

★「中高連携」で大切にしたいと考えていること

- ・ 中高6年間で連続し、かつ効果的な教育の場となるよう、学習環境、生活環境を考えていきます。

○ 学校行事

次のような行事を中心に、高校生と交流する機会を設けています。

(令和8年度の例)

・ 儀式

入学式、対面式（4月）、高校卒業式（3月）

・ 訓練、講演会

防災・防犯避難訓練（4月、9月）、人権講話（12月）

・ SSH関係（詳細は高校 Web サイトをご覧ください）

SSH 生徒成果発表会（5月）、

サイエンスコミュニケーション（7・12・3月）、

チェンジメーカーセミナー（7・12月）、生徒探究発表会（8月）、

合同探究発表会（3月）

・ 同窓会関係

アントレプレナーシップ講演会（5月）、法曹と語る会（11月）

・ 学校祭

高校「ひいらぎ祭」4日間のうち、3日間開催。

「文化アピール・文化講演」、「校内公開」、「一般公開」

※ 令和8年9月12日（土）の一般公開へぜひご参加ください！

詳細、事前申込は高校・中学実行委員会 Web サイトからお願いします。

○ 教職員体制

中学・高校の教員が定期的に研修を行い、中高一貫校としての教育活動の充実に向けて取り組んでいる。また、教科指導についても、定期的に教科の教員が集まる教科会を行っており、高校との接続体制を整えている。

6 PTA 活動【保護者の方向け】

○ PTA の組織

附属中では、令和 8 年度は組織をしていません。今後、教員、保護者の方からの要望等があれば、設置を検討します。

なお、高校進学時に、高校 PTA への加盟をお願いしています。

○ 保護者と一緒に学校創りをする機会

令和 8 年度は、附属中で授業公開・保護者懇談会を 5 月、8 月に実施します。午後の保護者懇談会では、「家庭での様子」や「学習について」の座談会を通して、保護者の方と教員の目線合わせを行っています。

また、中高合同で 10 月に公開授業週間（校外公開）を行います。

7 保護者の負担額【保護者の方向け】

○ 学校徴収金

学校の教育活動で必要となる費用を、次の4つの会計で徴収しています。

令和8年度は年間13万円程度を、年3回に分けて徴収しています。

・ 給食費会計

個人負担となる食材費相当額について学校単位で集約し、半田市に支払う費用（令和8年度は1食につき380円）

・ 生徒会会計

生徒会の諸活動に要する費用（主にひいらぎ祭）

（費用の例）校外の会場使用料、ゴミ処理代、ポスター印刷代、企画準備

・ 教育振興会計

当該年度の教育計画に基づく学校単位の教育活動を実施するために要する費用

（費用の例）医薬品・給食用消毒液等、雑誌・新聞・図書広報物等

・ 学年費

当該年度の教育計画に基づく学年単位の教育活動を実施するために要する費用

本資料3・7ページにあるように、さまざまなサービスを利用するため、こちらの金額が一般的な公立中学校よりも高くなっています

（費用の例：令和8年度1年生）

個人毎の物品購入費 …校章バッジ、身分証明カード、学級写真、歯鏡

〃のサービス利用料 …オンライン図書館サービス、学習支援サービス、学校からの連絡支援サービス

各種負担金 …日本スポーツ振興センター共済掛金

教材費・実習費 …9教科＋総合・道徳

○ 旅行積立金

旅行社（日本旅行）に対して、次の2つの宿泊行事の旅行費用を支払います。一括支払の他、希望されたご家庭には第1学年の途中から積立をすることも可能です。

・ 野外活動（第2学年） 令和8年度入学生は55,000円

・ 海外研修（第3学年） 令和8年度入学生は450,000円

○ 就学援助制度

経済的な理由により、お子様を就学させることにお困りの方に対し、学用品費、医療費、学校給食費などを援助する制度です。援助内容や対象者は市町村ごとに異なります。申請手続や申請時期等の詳細は、お住まいの市町村教育委員会にお問い合わせください。なお、就学援助制度は、年度ごとに申請が必要です。